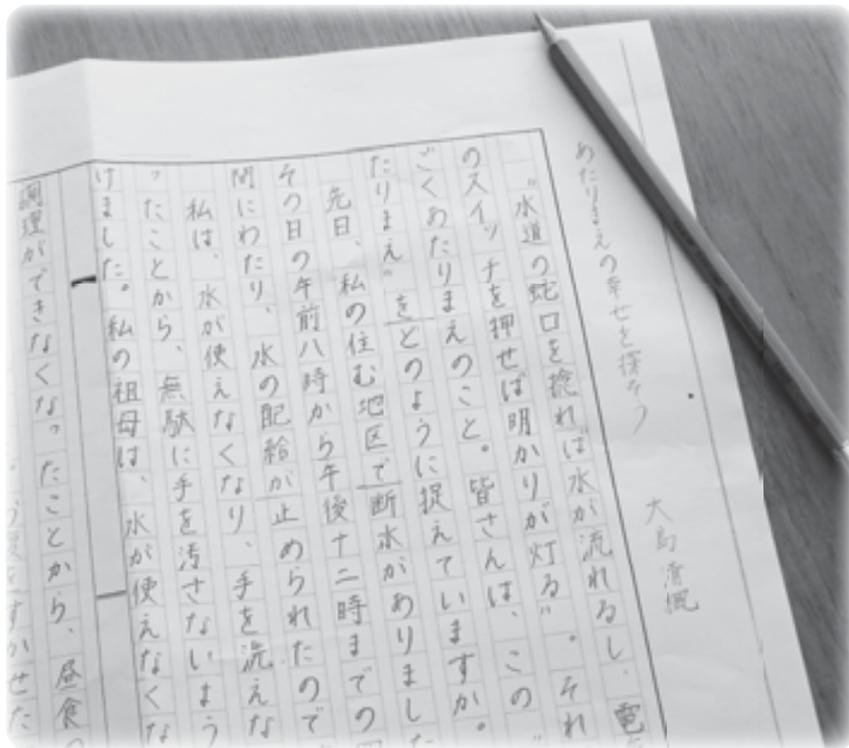


みんなに伝えたい わたしたちの想い



中学生が日頃考えている意見や主張、普段の生活の中で感じる家族や仲間との絆などを発表する「関川中学校わたしの主張大会」が7月23日、関川中学校で開かれました。各学年から選ばれた代表6人が、6分以内という規定のなか、言葉一つひとつに心をこめ力強く発表。

審査の結果、村上・岩船地区大会（県村上地域振興局、村上市・岩船郡青少年健全育成会議主催）出場者に大島清楓さん（3年・上野新）が選出されました。

大島さんは、8月23日に行われた同大会で発表し、奨励賞を受賞しました。

*発表の概要は次のとおり。

中学生になり「自分に任された仕事は最後まできちんとやらないといけない。」と強く思うようになりました。それは、ボランティア委員会で割り当てられた清掃を忘れてしまつて、後悔したからです。また部活動では、窓開け係の人が仕事を忘れていて、柔剣道場が暑くなつていて困ったことも前にありました。

僕は、今、人に頼らず自分で仕事を最後までやろうと思つていきます。それは、自分や相手、周りの人のためになるはずだからです。

そこで、委員会や部活動などの自分の仕事は何度も思い出し忘れないようにしています。この気持ちを責任感と言うのではないのでしょうか。皆さんも仕事を最後までやる努力をしてみませんか。



高橋京介さん
(1年・上土沢)

自分に任された 仕事は

「ありがとう」と同じ場面で「ごめんね」という言葉を使うことがあります。「ありがとう」は感謝の気持ちが強いと思います。言われてうれしくなると思います。「ごめんね」は申し訳ないという気持ち強いと思います。でも使い方や言い方により、だいぶ違う感じの言葉になつてくるのではないのでしょうか。

その使い方や言い方の背景にあるのは何でしょうか。それは気持ちだと思えます。伝える『言葉』にするには、その言葉に気持ちを込めることが大切だと思います。

そこで私は、気持ちを込めて「ありがとう」と言うことを心がけようと思います。どんな人にも気持ちを込めて伝えるような毎日にしていきます。



ひなの
五十嵐陽音さん
(1年・田麦千刈)

伝わる『言葉』

2014 関川中学校

「わたしの主張」大会



長谷川 康太 さん
(2年・下関)

チームワークを 考える

野球部は、少人数ですが団結して頑張っています。試合で精一杯プレーしても、ときには失敗したりします。そのときチームメイトが必ず「ドンマイ」と声をかけてくれるので、それをきっかけに「よし、切り替えよう」と、次のプレーに入ることが出来ます。このとき失敗した人を責めないのはチームとしてプレーしているからです。野球では、チームの団結、チームワークが重要です。以前、先制点を取られたが、後半で打線がつながって逆転勝利を収めたことがあります。個人のスポーツもチームワークがあるといえます。

このチームワークは職場や身近な生活でも必要です。この経験が大人になってから生きてくると信じています。



大島 七泉 さん
(2年・上野新)

交通安全とは

小学生の時、親と車に乗っていて追突され、大きな衝撃を受けました。

それまでは「交通事故に遭うわけがないし、注意していれば大丈夫だ。」と思っていました。しかし今は「交通事故は本当に危ない。」と思うようになりました。そして、交通事故を甘く見るといこうことは死を招くことにつながるということがわかりました。

交通事故は、全員が気を付けなければならぬと思っています。交通安全のために、協力し合って交通ルールを守り、事故防止の意識を常に持つことが大切なのです。交通事故防止の意識をもつ、気になることがあればお互いに声をかけ合う、それが将来運転することになる僕たちに、必要なのではないのでしょうか。



近 明侑佳 さん
(3年・上関)

一番素晴らしい ということ

「最高にしないとダメだよ。」という言葉が、私の心を大きく動かしてくれました。

ピアノ発表会でも定期テストでも、やり終えた後には「後悔」がありました。そんなときに、祖父のこの言葉から気づくことができました。今までの私は、ただ頑張っただけで、自分の最高ではなかったと……。

また、母の「うさぎと一緒にだよ」という言葉から、私が一番大切なところで息抜きをしてみたい、結局、残念な結果になっていたのだと気づきました。

祖父と母の言葉は私の宝物です。「頑張った」のと「最高にやった」のでは達成感が違うと思います。これからの日々を大切に「最高！」と思える日を迎えたいです。



大島 清楓 さん
(3年・上野新)

あたりまえの 幸せを探そう

『水道の蛇口を捻れば水が流れるし、電気のスイッチを押せば明かりが灯る。』皆さんはこのあたりまえをどう捉えていますか。

先日断水があり、いつもとは違った四時間を過ごしました。水を使えることはとても幸せなことだと思いました。急に水を得られなくなったことで、人はその存在の大きさに気づくのです。

いつもあるものやできるところをもう一度見つめ直してはどうでしょうか。私は、断水の経験から水の尊さを学びました。少し考えるだけで、何かに対する感謝、誰かに対する感謝や喜びが見つかるかもしれません。そうすれば、あたりまえだったものを今まで以上に大切にできるのではないのでしょうか。